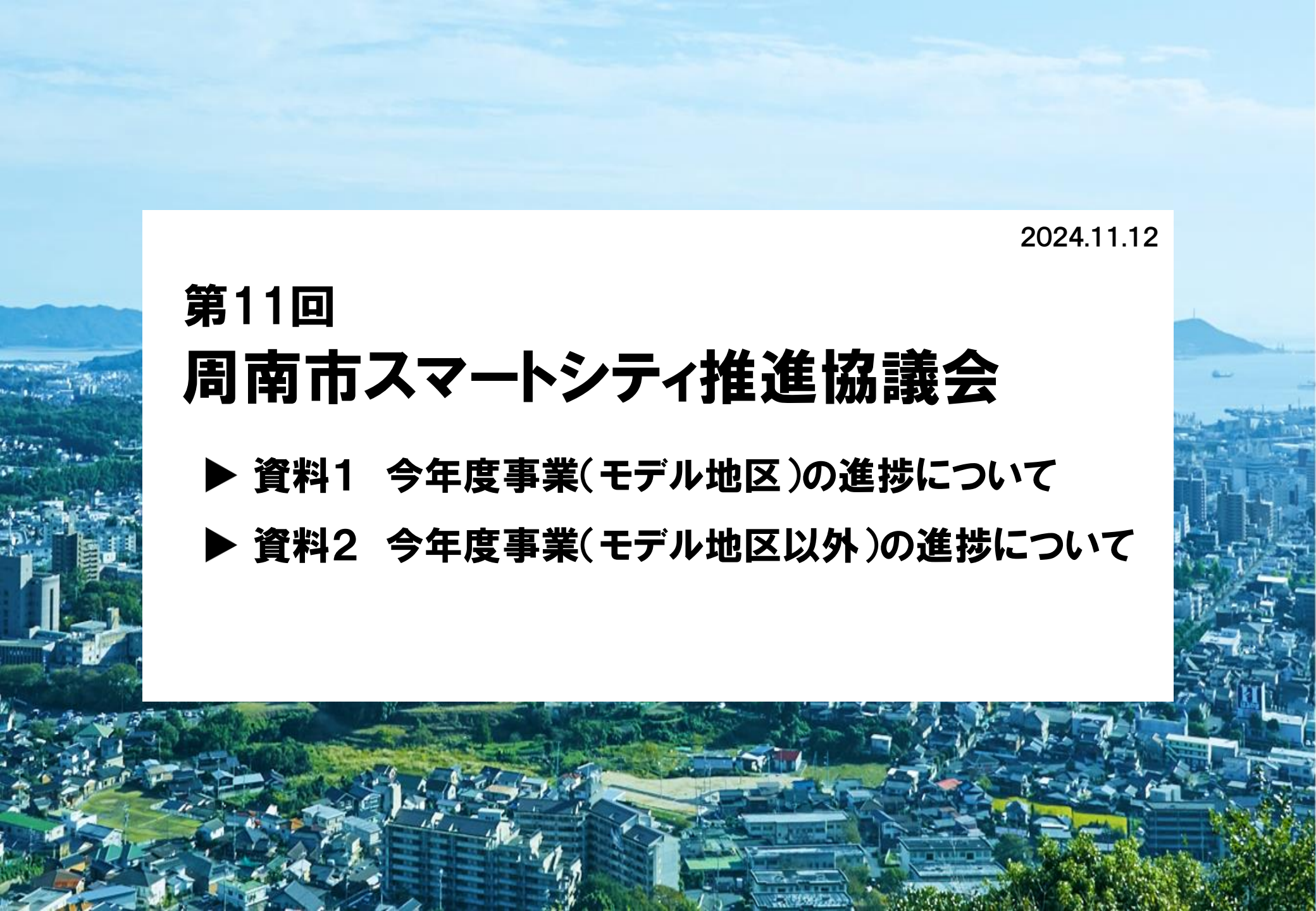




2024.11.12

第11回 周南市スマートシティ推進協議会

- ▶ 資料1 今年度事業(モデル地区)の進捗について
- ▶ 資料2 今年度事業(モデル地区以外)の進捗について

資料1

今年度事業(モデル地区)の進捗について

前回のふりかえり

取組① 統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

取組② 地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

取組③ モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

取組④ 継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

前回のふりかえり

取組① 統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

取組② 地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

取組③ モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

取組④ 継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

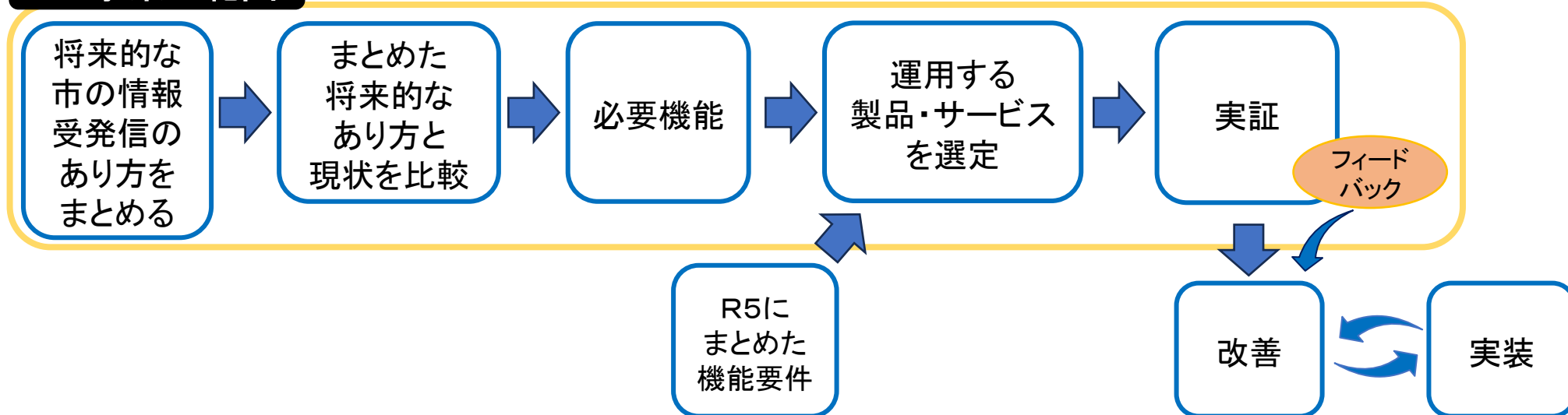
統合型情報受発信ツール

将来像 住民起点の生活情報に関する課題が解決され、全市域へ展開される。

- R6事業の狙い**
- 情報に関する課題解決手法としての有効性を検証する。
 - 将来の実装に向け、改善点等のフィードバックを得る。

内容 将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、モデル地区で実証的に運用する。

R6事業の範囲



情報の受信・発信に求める価値

情報受信者：欲しい時に欲しい正確な情報のみが手に入る

- ◎正しい情報である
- ◎情報が公表されてから受け取るまでにタイムラグがない
- ◎欲しくない情報は受け取る必要がない
- ◎情報がいつでもどこからでも参照できる
- ◎知りたい情報が手に入る
- ◎情報の検索が簡単にできる
- ◎自動的に情報が手に入る

情報発信者：伝えたい人に伝えたい時に伝えたい情報を正確に伝えられる

- ◎伝えたいと思ったタイミングから情報発信するまでにタイムラグがない
- ◎伝えたい人に絞って発信ができる
- ◎伝えたい人の手元に情報が届いたことがわかる
- ◎伝えたい人が情報を見たことがわかる
- ◎情報を正確に理解してもらえる

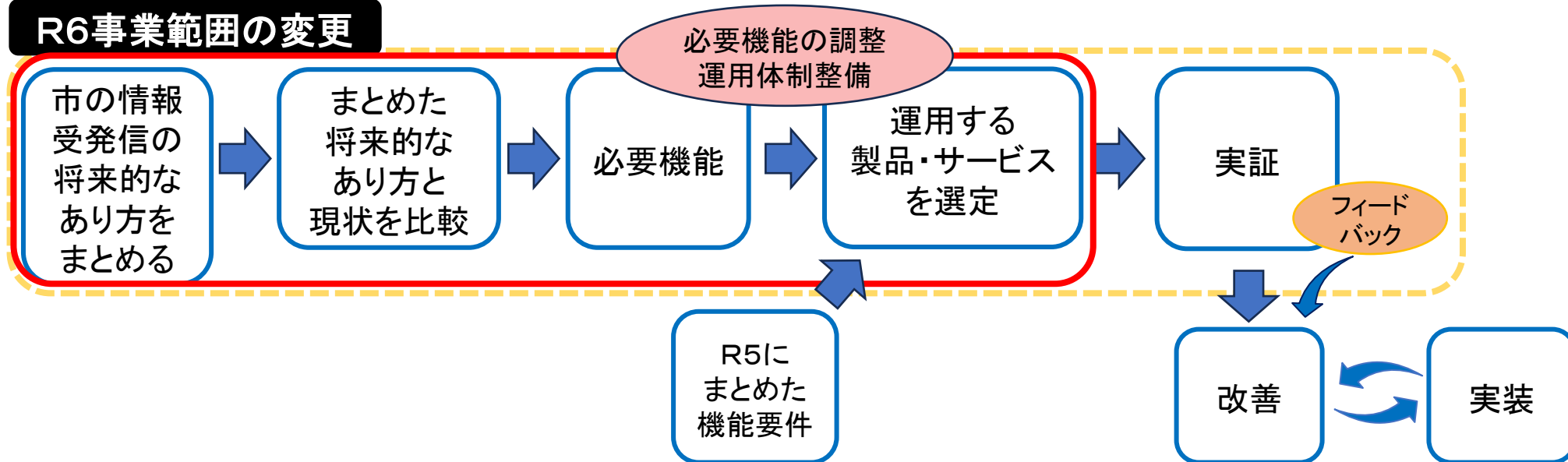
統合型情報受発信ツール

検討結果

情報の受発信において、これまでに収集した課題やニーズは多岐にわたり、それらに同時に取り組むと整理すべき事項も多く、実装までに時間がかかる。

⇒まずは行政情報分野の発信に絞った形で、市公式LINEの機能拡充から開始し、フィードバックを得ながら改善を進める。

R6事業範囲の変更



統合型情報受発信ツール

実装を見据えた整理

- 必要となる機能に優先順位をつける。
早期実装を目指し、当初から運用を開始する機能、随時拡充していく機能について、整理する。
- 情報発信を統一的に行うための仕組みを検討し、運用体制を整える。
情報を発信する際のルールを明確にし、部署によって情報発信に差異がでないようにする。
- 受信者、発信者双方にとってツールの有用性を感じられる環境をつくり、利用の動機づけにつなげる。
提供する情報や機能など、受信者に選ばれる媒体とするための調査研究を進める。発信者として求める機能の整理・調整を行う。



情報の受信、発信に求める価値の実現を目指し、市公式LINEを活用しながら、継続して検討を進める。

前回のふりかえり

取組① 統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

取組② 地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

取組③ モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

取組④ 継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

将来像 地域内の情報発信に関する課題が解決される。

R6継続実証の狙い 地域、行政各々の立場で、地域で運用を継続する策を検討し、将来の実装可否の判断材料とする。

地域公式LINE試行

令和5年度の実証では情報発信・共有ツールとしてLINEの有効性は確認できたが、同時に明らかとなった「**担い手面**」「**費用面**」の課題について、地域で継続して運用・管理を行いながら、課題解決、将来の運用の実現可能性の検証を行っている。

令和6年10月末時点の登録者数

周陽地区：132名（令和6年8月 実証再開） ←55名（令和5年度末時点）

遠石地区：131名（令和6年7月 実証再開） ←100名（令和5年度末時点）

これまでの主な発信情報

- ◆ 地区だよりの発信
- ◆ 地区イベント（祭り、防災訓練など）の発信
- ◆ 地域団体（こども食堂、自主防災組織）からのお知らせの配信
- ◆ 避難所開設のお知らせ

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

検証・検討項目

◎地域の人だけで運用していけそうか。

- ✓ 管理の手間が大きすぎないか。(時間的コスト)
- ✓ 管理に係る操作が難しすぎないか。(操作スキル)
- ✓ 管理ができそうな人が地域にいるか。(人材発掘)
- ✓ 情報発信ができそうな人が地域にいるか。(人材発掘)
- ✓ 管理におけるルールはどう設定するのか。(運用ルール)
 - 管理体制
 - 管理権限を付与する人の条件
 - 発信権限を付与する人の条件

➡ 管理者へのヒアリング、ルールに沿って運用しながらの
検証

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

◎地域の予算で運用していけそうか。

- ✓ 想定年間費用はどのくらいか。(費用感)
- ✓ 削減できる経費はないか。(支出の減少)
- ✓ 収入の増加は見込めるか。(収入の増加)

➡ 発信実績による費用の試算、試算を踏まえた検討

◎情報をどう取り扱うのが適正か。

- ✓ 情報発信時のルールをどう設定するのか。(情報統制)
 - ・発信する情報の範囲(地域内の全住民対象のみなど)
 - ・発信のタイミング(随時、週1回、週2回など)
 - ・発信時の注意事項(禁止事項・留意事項)

➡ ルールに沿って運用し、情報発信者へのヒアリング

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

◎登録者は増えそうか。

✓ どのような周知が考えられるか。

➡ 周知を実施後の登録者数の推移確認による検証

◎行政としてどのような支援が可能か。

✓ 人材面でどのような支援ができるか。

✓ 費用面でどのような支援ができるか。

➡ 地域づくり推進課にて引き続き検討

前回のふりかえり

取組① 統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

取組② 地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールのの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

取組③ モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

取組④ 継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

モデル地区でのスマートシティ推進支援

将来像

企業等が積極的に地域に関与し、課題解決が迅速に進められる。

R6事業の狙い

- 行政がもつまちづくりの視点と、企業等のノウハウ・技術等を組み合わせ、**地域課題の解決を実現**する。
- 企業等が積極的に**地域に関与しやすい環境を整備**し、地域課題解決に向け、スマートシティの取組を加速させる。

検討状況

◆ 提案公募制度の枠組み

- ・市の支援体制(市としてどのような支援が可能か)
- ・企業のメリット(提案しやすい状況をつくりだせないか)
- ・企業の負担感(提案までの負担を極力減らせないか)
- ・提案事業の審査方法(取り組む事業をどのように決定するか)

モデル地区でのスマートシティ推進支援

他市事例

つくば市：つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業

市が示す課題や、市の重点施策の背景にあるキーワードを踏まえ、先端的技术を用いて、課題解決のための手法の提案を求める。

公募回数 1回/年

(支援内容)

- トライアルの費用負担
- 専門家によるトライアルの助言
- 実証実験会場の確保、モニターのあっせん
- 国等に対する規制・制度改革の提案
- 大学・研究機関とのマッチング
- 市のイベント等におけるPRの場の提供

事業終了後も市が実施する他事業を通じた継続的な支援でフォローを行う。

参考：令和6年度採択件数 4件

モデル地区でのスマートシティ推進支援

他市事例

宇部市：宇部市 × 実証実験事業応援制度

市民や企業及び団体が、宇部市を実証フィールドとして自ら取り組む、持続可能で革新的な取組等につながる実証実験事業を全国から募集し、採択された事業は、「宇部市公認事業」として支援を行う。（同一事業において最大2年間）

公募回数 4回/年

（支援内容）

- 「宇部市公認事業」としての広報活動が可能
- 宇部市をフィールドとして提供
- 市・県・国の補助金及び助成金、支援施策などの関連情報を提供
- 市ウェブサイトやSNS等を活用した広報 など

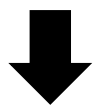
参考：令和6年度第1回採用件数 3件

モデル地区でのスマートシティ推進支援

今後の展開

提案公募制度の実施

- ・モデル地区で収集できた課題・ニーズを公開
- ・効果的な周知方法を検討し、周知を実施
- ・企業が提案したくなるような仕掛けを検討



提案公募制度の枠組みの検証

前回のふりかえり

取組① 統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

取組② 地域の情報発信・共有ツールの継続実証

LINE地区公式アカウント(試行版)の実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

取組③ モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

取組④ 継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

将来像

- 困りごとや課題を相談、共有できる場が存在し、住民、企業、教育研究機関、行政等、多様な主体が課題解決に向けて一緒に考え、連携した取組が生まれる仕組みが構築されている。
- 課題解決に向けた取組の状況がデジタルツールを通じて広く共有され、新たなプレイヤーの参画につながる。
- 多様な主体が連携しながら、仕組みが自走する。

R6事業の狙い

- 仕組みの有効性の検証、改善点の洗い出し等を行い、仕組みの実装につなげる。
- 仕組み内での活動を通して関係者の成功体験を創出し、活動意欲を高め、仕組みへの継続的な参加につなげる。

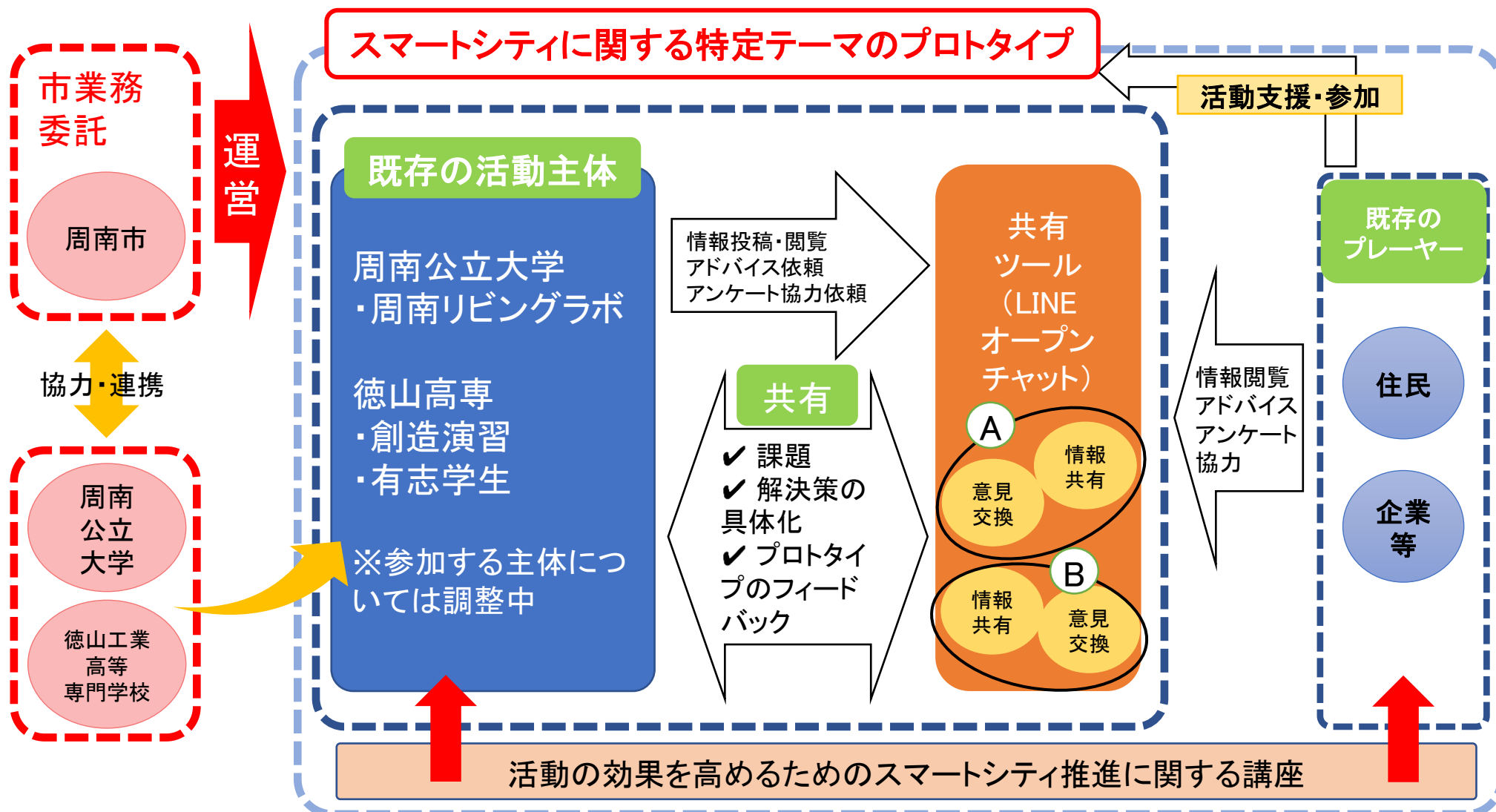
継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

内容

将来、スマートシティを継続的に推進する仕組みを実装するために、まずは、地域課題解決に向けた既存の活動において、“双方向の情報共有（活動状況の共有、意見交換など）の場”で多様な主体が関わることで、課題解決策のブラッシュアップにつながるかの検証を行う。また、共有ツールに求められる機能、運用の検証を行う。

- 共有ツール上における活動状況の発信や意見交換
- 活動主体の求めに応じた、企業等による情報提供・助言
- 実証参加者を対象に活動の効果を高めるための講座を開催

R6継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証



実証参加者の概要

活動主体

◆ 周南リビングラボ

教員や学生だけでなく、企業や市民の方にも参画いただき地域課題の解決を考える実践の場。

◆ 創造演習

新規性のある情報システムを企画・設計する、徳山高専情報電子工学科4年生を対象とした授業科目。

◆ 有志学生による活動

地域課題解決にグループで取り組む、徳山高専の学生。

◆ 住民

活動主体の取組に関する情報を知ってもらうとともに、リアクションでの関心の表明、活動主体から求めがあった場合、アンケート等への回答を行う。

◆ 企業等（企業、団体）

活動主体の取組に関する情報を知ってもらうとともに、活動主体から求めがあった場合、情報提供や助言を行う。

R6実証で活用する共有ツール(LINEオープンチャット)

前提 仕組み内でツールを活用するにあたり、まずは既存サービスにおいて、機能が足りているか、運用が可能かの検証を行う。

R6ツール選定の観点

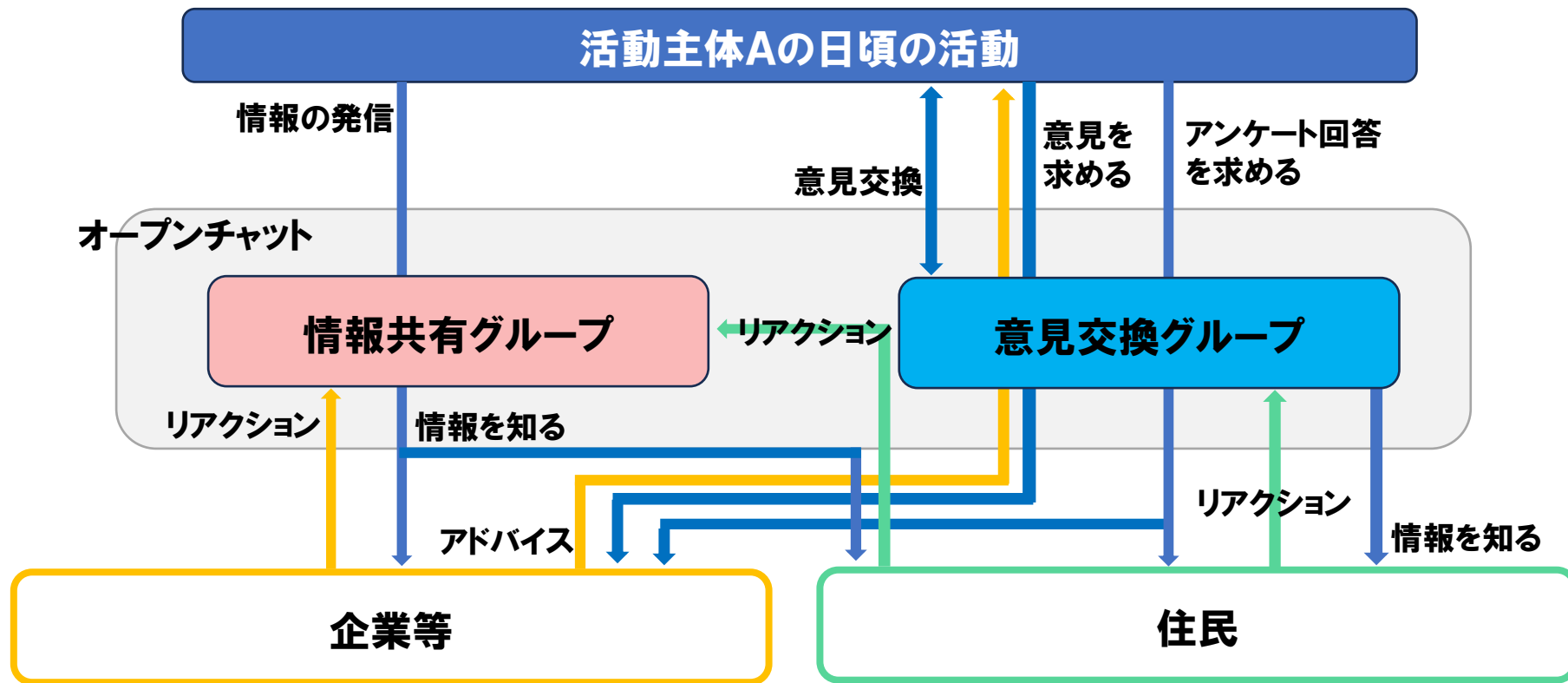
- ◆ 活動主体及び住民等の参加のハードルを下げること
社会に広く普及しており、全年代においてLINEの利用率は高い
- ◆ 活発な情報共有、意見交換が行えること
匿名での参加が可能であり、チャットツールの性質上、双方向でのやり取りに強みがある



仕組み内で活用する共有ツールとして必要となる機能・要件を、ツールを活用しながら整理し、次年度以降のツール選定を行う。

実証で活用する共有ツール(LINEオープンチャット)

活用のイメージ



情報共有グループ

取組内容、課題解決の進捗状況等の情報共有の場。意見交換や活動主体以外の主体からの発信は不可。企業等、住民はリアクションで参加。

意見交換グループ

活動主体内や企業等との意見交換の場。住民はリアクションで参加。

ミニフォーラム（仮称）アイディアブリッジ90

仕組み内で活動をする際に、活動の効果を高めるためのスマートシティ推進に関するミニフォーラムを開催

開催日 令和6年11月18日（予定）

開催場所 周南公立大学（予定）

対象者 実証参加者

講座企画の観点

共有ツール参加者間の顔が見える機会の創出

- デジタルツール上でのテキストコミュニケーションにおける誤解等のリスクの軽減を図る。

デジタルの共有ツールを活用した課題解決手法に関する学習機会

- 意見を課題解決策のブラッシュアップにつなげるためには「意見の求め方」が重要なポイントであるため、意見交換の手法論の学習機会をつくるとともに、「アイデアに対する助言の仕方」についても認識を共有し、理想的な空気感を目指すための学習機会をつくる。

資料2

今年度事業(モデル地区以外)の 進捗について

令和6年度デジタル関連の市の取組（1／4）

運用中：市民や職員がサービスを利用できる状態

着手済：必要な手続等に着手している状態

検討中：事業について検討を行っている状態

分野	取組	概要	状況
安心 安全	災害対応用ドローンの導入、操縦士育成	非常時に、被災状況の確認、早期復旧を図るため、災害対策本部の指揮下にドローンの飛行チームを編成する。平常時には、業務の質の向上及び効率化を図るため、ドローンの積極的な活用を行う。	運用中 (R6.4～)
	消防用ドローンの導入	災害活動における情報収集や活動隊員の安全管理など消防救助活動の高度化を図るため、消防用ドローンを導入する。	運用中 (R6.9～)
	消防指令システムの更新	災害時の状況把握や救助活動の効率化を図るため、消防指令システムの更新を行う。	着手済
	河川等水位の監視	災害時における職員の負担軽減・合理化及び水害リスクの可視化のため、市が管理する河川や水路に簡易水位計を設置し、その水位情報を市民に提供するシステムを構築する。	一部運用中

令和6年度デジタル関連の市の取組（2／4）

分野	取組	概要	状況
医療・福祉	郵便局と連携した巡回診療の実施	地区内に医療施設のない和田地区の郵便局で医師が巡回診療を行うことで、住み慣れた地域で継続的に診療を受けることができる環境を整備する。	運用中 (R6.7～)
学び・子育て	保育所等業務ICT化のためのシステム拡充	公立の保育所・認定こども園の保育環境の充実に向け、業務ICT化のために機能の拡充を行う。	一部運用中
	小学校でのGISを活用した安全マップづくり	モデル地区の2校で従来、模造紙を使用し行っていた危険箇所等を可視化する授業で、タブレット端末を使用しGISでの安全マップを作成する。あわせて他校での実施も検討する。	運用中 (R5～)
暮らし	書かない窓口システムの導入	待ち時間の短縮や手続の簡素化、職員の事務の効率化などの課題を解決し、窓口業務の改善を図るため、窓口DXサービスを導入する。	着手済
	オンライン申請サービスの推進	望む人すべてがオンライン手続できる環境を目指し、オンライン申請サービスを拡充する。	着手済
	粗大ごみ収集のオンライン申込	住民の利便性向上のため、粗大ごみ収集の申込みや収集料金の支払いをオンライン上で受け付ける。	運用中 (R6.4～)

令和6年度デジタル関連の市の取組（3／4）

分野	取組	概要	状況
暮らし (続き)	家庭ごみ搬入のオンライン予約	交通渋滞や長時間に及ぶ待ち時間の解消を図るため、家庭ごみの自己搬入のオンライン事前予約制度を導入する。	運用中 (R6.10～)
	スポーツ開放施設予約システムの導入	利用者の利便性の向上、管理者の事務効率化を目指し、市内小中学校の運動場・体育館を使用する際の手続きをオンラインで完結できるシステムの対象サービスを拡張し、導入校を拡大する。	運用中 (R5.12～)
	ごみ拾いSNSとごみ分布状況の可視化	SNSの活用により地域清掃活動の成果を見える化し、環境美化のさらなる推進を目指すとともに、車両に設置したスマホカメラの画像データをAI分析し、ごみの分布状況を可視化し効率的な環境美化の取組につなげる。	運用中 (継続実証)
産業	センサー等を活用したスマート農業	わさび生産初心者でも安定的・効率的に生産できるよう、最適な生産環境や体制の整備等に取り組むため、新規就農者とベテラン農家のビニールハウスに機器を設置し、生産環境のデータ取得を継続実施する。	運用中 (R5.10～)
	森林資源の見える化に向けた取組	森林資源情報の高精度化・高度利用化を図るため、周南市内の森林域の航空レーザ計測・解析データを森林GISに取り入れ、既存業務に活用するとともに、他の有効的な活用方法について検討する。	運用中 (R6.4～)

令和6年度デジタル関連の市の取組（4／4）

分野	取組	概要	状況
行政	クラウド型電子契約サービスの導入	市及び事業者のペーパーレス推進による業務効率化及び経費負担の軽減などを図るため、従来の紙と押印を用いた形式を、電子データおよび電子署名を用いた電子契約サービスに対応できるよう整備する。	着手済
	ノーコード業務改善ツールの導入	バックヤード業務の改善を推進するため、特別な知識やスキルがなくても感覚的に業務アプリを構築できる環境を整備する。	着手済
社会基盤	統合型・市民公開型GIS等の導入	行政サービスの向上、業務の最適化・高度化、コスト削減を実現するため、複数部署が利用するデータを各部局が共有できる形で整備・集約した市内横断的な地理情報システムを整備する。また、非公開データを除き、公表可能な情報を市民に公開する地理情報システムをあわせて整備する。	着手済
その他総合	モデル地区（周陽・遠石）での取組、スマートシティ推進シンポジウム 等	※モデル地区での取組は資料1を参照 ※モデル地区以外の取組は次ページ以降を参照	

移動型スマホ教室(山口県と連携)

開催日 令和6年10月の毎週金曜日 計4回

場所 熊毛総合支所、新南陽球場、須々万市民センター別館、ソレーネ周南

対象 スマートフォンの操作方法について学びたい方

内容 オンラインで講師とつないだタブレットを通じて、スマートフォンの操作方法や活用方法の講座を受講
1講座60分 4講座/1日
オンライン講師と現地スタッフ2名によるサポート

参加者 9名(4回の延べ人数)



各開催場所の駐車場に設置



車内の様子

移動型
スマホ教室開催

参加費 無料

少人数制
各回3名
(先着順)

スマホが
なくても
OK!

10月4日/11日/18日/25日
市内4カ所で講座を実施

※講座内容、場所、時間など詳細は裏面記載

スマホなんでもサポート号 予約制 申込期限は開催日の前日
予約専用窓口
受付時間: 9:00~17:00 (通話無料)
土日祝も受付中

0800-111-9442

スマートシティ推進シンポジウム

開催日 令和6年12月22日(日)13:00~16:00

場所 周南市役所シビックプラットホーム 1階 多目的室

対象 周南市民、周南市内に通勤・通学している方、
スマートシティに興味がある方

内容 『講演』

NTT西日本
エクスフィールド合同会社
富山県富山市

宮崎 一 氏
國本 宗直 氏
岡村 菜々 氏

『パネルディスカッション』

テーマ:つながりがつくる未来の暮らし

[ファシリテーター]

東京大学大学院

羽藤 英二 氏

[パネリスト]

講演者3名

合同会社Roof

浦田 遥 氏

Tsukuru to Ugoku Design株式会社

赤木 真由 氏

周南市

川口 洋司



参加 無料

2024
12.22(日)
13:00~16:00

周南市役所シビックプラットホーム
1階 多目的室

会場またはオンライン
会場80名
オンライン視聴500名

参加対象者
周南市民、周南市内に
通勤・通学している方、
スマートシティに
興味がある方

プログラム
01 講演 02 パネルディスカッション

[ファシリテーター] 東京大学 羽藤 英二 氏
[講演パネリスト]
NTT西日本 宮崎 一 氏
エクスフィールド合同会社 國本 宗直 氏
富山県富山市 岡村 菜々 氏
合同会社Roof 浦田 遥 氏
Tsukuru to Ugoku Design株式会社 赤木 真由 氏
周南市 川口 洋司 氏

お申し込み
いずれかで事前申込が必要です。お申込多数の場合は抽選となります。
申込期限/2024年12月6日(金)まで

WEBフォーム
でのお申し込み

ページ内から申込フォームに
アクセスしてお申し込みください。
<https://www.city.shimonan.lg.jp/soeki/8/121804.html>

TEL 0834-22-8263

お電話での
お申し込み

周南市スマートシティ推進課 0834-22-8263

自動運転EVバス実証

実証期間

令和6年11月1日(金)～12月20日(金)



周南市
自動運転EVバス 実証運行

周南市中心市街地を走ります
自動運転EVバスが

運行ルート JR徳山駅前 ⇨ 徳山動物園 運行期間 2024 11/1(金) ⇨ 12/20(金)

山口県では、周南市等と連携して、住みよく活気のあるまちづくりと公共交通の運転士不足に対応するため、JR徳山駅前と徳山動物園の間で自動運転EVバスの実証運行を行います。将来的な自動運行に向け、まずは、オペレータが同乗して、かつ、低速で、安全を確保しながら運行します。是非、期間中に乗車していただき、アンケートにて感想を教えてください。ご理解、ご協力をお願いします。

自動運転EVバスとは?
自動運転EVバスは、車体のセンサーや遠隔監視システム等を使って自動で発車・停車、右左折を行います。今日の実証運行では、オペレータが同乗し、危険を察知したら手動操作で安全に走行します。

特設サイト
詳しくはこちら

山口県 × 周南市 × 防長交通(株) × 西日本電信電話(株)

周南市 自動運転EVバス 実証運行

運行ルート JR徳山駅前 ⇨ 徳山動物園 運行期間 2024 11/1(金) ⇨ 12/20(金)

乗車料金
無料

「ちょい乗り100円バス」とはルートが異なるのでご注意ください。

低速(時速18km程度)で走行します。
自家用車を運転する方でお急ぎの場合は、運行ルートを変更して運行するなど、ご協力をお願いします。



運行ダイヤ 11/1(金)～12/20(金) 9時～16時台に運行(12時台を除く)

区分	バス停	時刻
往路	① 徳山駅前8番のりば	毎時10分発
	② 市役所前	毎時15分発
	③ 美術博物館南	毎時20分発
	④ 徳山動物園南	毎時25分発
復路	④ 徳山動物園南	毎時35分発
	⑤ 徳山高校向かい	毎時45分発
	⑥ 市役所向かい	毎時50分発
	⑦ 徳山駅前8番のりば	毎時55分発

乗車方法 曜日によって乗車方法が異なります。

日・月・火曜日	予約不要で先着順に乗車
水・木・金・土曜日	予約した方が優先的に乗車

予約はおもて面に記載の2次元コード(特設サイト)から申込みください。

※予約の単位は、「往路」または「復路」です。
※往路・復路の区間をまたいで乗車する場合は、往路・復路とも予約してください。
※それぞれの区間内で乗れば、2つのバス停でも乗り降りできます。

お問い合わせ先 8:30～17:15(土日祝日を除く)
山口県デジタル政策課 社会実証推進課 TEL: 083-933-1325
周南市 都市整備部 公共交通対策課 TEL: 0834-22-8426